

# 写真山行 臥龍山行基寺を歩く (報告)

主 催 写真展実行委員会

- 撮影地 岐阜県海津市南濃町 臥龍山行基寺参道～境内
- 開催日 令和6年11月23日 (土) 晴れ
- 行 程 近鉄名古屋→桑名→美濃山崎 ～行基寺～ 美濃山崎→桑名→近鉄名古屋  
9:41 10:00 10:30 11:00～13:30 15:10 15:38 16:21
- 参加者 蟹井、蜂矢、岩月、中村庸男、金武つや子・・・5名

今回は公募した写真山行で写真展実行委員会の委員以外で2名の方に参加いただきました。心配した天気は上々で雲がやや多い空模様でしたが、晴れ間を味方に撮影が出来たかと思えます。

養老線の美濃長山駅から蜜柑畑や神社などを通り抜け家々の花々を愛でながら行基寺の参道入口まで歩きます。参道手前の池の端に日本武尊が大和に帰る途中に怪我をおして杖を突いて登ったとされる坂の碑がありました。

ここからはずっと坂道が続きます。参道の両側にはモミジの大木が続き期待して登ってきたのですが、残念ながら紅葉には早く日当たりが良い箇所には紅葉が見られた程度でした。それでも何とか紅葉を探しての撮影山行でした。行基寺は744年、地方を巡っていた行基がこの地の洪水による被害を目のあたりにし人々の為に建立したと言われています。

今回の余韻は行基寺の書院からの眺めと手入れされた回廊式庭園です。宝永2年に美濃高須藩松平家初代松平義行公が当山再建と同時に縁山和尚によって作庭された庭園です。眼下には庭園から続く揖斐川水系が広がっています。この庭と遠望が一体となってこそ行基寺の醍醐味であると言われています。外部の常夜灯がある展望台からは大垣や岐阜の町並みや右手には名古屋駅の高層ビル群が眺められます。素晴らしい風景の余韻を抱いて参道を下り同じ道を山崎の駅まで戻りました。(文責:岩月)



撮影岩月



撮影金武



撮影金武



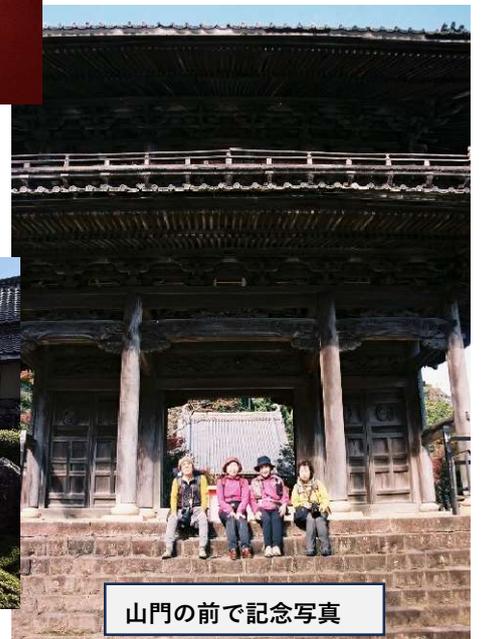
撮影蟹井



撮影蜂矢



撮影中村



山門の前で記念写真



撮影蜂矢